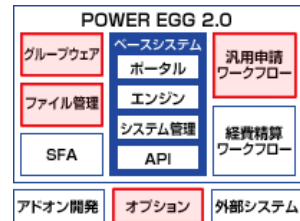


日本電産シンポ株式会社 様

ワークスタイルの変革にPOWER EGG2.0を活用！
その具体的な活用方法とは！



製造業

業務効率向上

電子決裁化



会社概要

■会社名

日本電産シンポ株式会社

■所在地

京都府長岡京市

■事業内容

無段変速機の製造販売
産業能率機械の製造販売
工芸機器の製造販売
計測制御機器および
その応用機器の製造販売
DCブラシレスモータの製造販売

■従業員数

1,794名 (2011年3月期/連結)

■URL

<http://www.nidec-shimpo.co.jp/>

POWER EGG利用環境

■ライセンス数

約550ライセンス

【取材ご協力者】



右) システム部/次長
栗田 幸賀 様

中) システム部/係長
入江 俊明 様

左) システム部
久川 智哉 様

※お役職名は取材当時のものです。

「紙&ハンコ」から「PCでの処理」へ。

売上・生産 2 倍を目指して、そのワークスタイルを変えようとする日本電産シンポ様は、申請・承認・決裁業務の電子化を視野に入れてグループウェアの入替えを実施しました。新しく選ばれた製品が「POWER EGG2.0」。同社は「効率化のための新機能 = 電子決裁（ワークフロー）機能があること」を評価し、POWER EGG2.0が選ばれました。

きっかけは既存グループウェアのリース満了。

《売上・生産 2 倍》には業務効率向上が必須。
そこで“電子決裁”ニーズが浮上！

同社がグループウェアの入替えを検討し始めたのは、従来稼働していたdesknet'sのリース満了が近づく2010年7月頃からである。その頃、同社内では《シンポ一人当たり売上・生産 2 倍》をスローガンとした全社運動が展開されていた。

「一人当たり 2 倍とは、まあ要するに、半分の数で従来と同じだけの仕事をこなさない、ということですね。となると、仕事の処理をもっと効率化しなければ無理です。そこで、個人別でも各部門別でもこの 2 倍を実現するには、“ふだんの業務処理を簡単にできるツールやシステムがあればいいんだけどなあ”という感じで、電子決裁的な処理方法への要望・必要性がいくつか出て来たんです。それならば、どうせ新しいグループウェアへの入替えを検討するんだから、申請や承認・決裁業務の電子化を進めるのにふさわしい機能を持つソフトを導入しようじゃないか、ということになった訳です」（栗田次長）

ユーザー参加の選考で意外な結果が。 ユーザはPOWER EGG2.0を選択した！

入替え・導入の検討を開始した当初、新規採用候補に挙がっていたグループウェアは 8 製品あった。それら 8 製品は、まずシステム部の段階で 4 製品に絞り込まれた。

「実はその時点で、私なりに選定製品は内心決まっていた。しかしこの 4 製品に絞った段階からはシステム部主導ではなく、一般ユーザーの意見も反映して選定しようということになりました。社員全員が使いやすいものでないと意味が無いので、皆で検討して選ぶということでした」（栗田次長）

選考を担当したのは、営業・生産・経理・総務など一般部署のユーザー 18 人およびシステム部の担当者 7 人。選考方法は、「使い勝手」「機能性」「操作性」など 4 項目に関して、各人が 5 段階で評価し総合ポイント 1 位の製品を選ぶ、というもの。

さてここで、ちょっと興味深い現象が生じた。システム部の栗田次長たちは、最大のポイントとして「電子承認」が意識にあったので、そのために、電子承認申請書式作成ツールの簡易的なものがあるかどうかを主眼として、それなりのシステムを内心決めていた。しかしユーザーは最終的にPOWER EGG2.0を選んだのである。

ユーザーが評価したポイントは、POWER EGG2.0の“ユーザビリティ（操作性）”や“個人ポータルの見やすさ”“ケータイ承認”等総合的な「使い勝手の良さ」にあった。

同時にPOWER EGG2.0の場合、Excelの書類をそのまま電子承認の書式として貼り付けて使えるという特長がある。だから、「簡単に電子承認ができるものを」というシステム部のニーズはきちんと満たされている。

またグループウェアの機能面で、従来のdesknet'sと比較しても何ら遜色はないということは、検討当初の段階からハッキリしていたので、結局ユーザーが評価する「グループウェア機能の使い勝手の良さ」とシステム部が意識した「効率化のための新機能 = 電子決裁（ワークフロー）機能があること」の双方を満たすものとして、POWER EGG2.0が選ばれたのである。

全社で電子化を推進。では、その申請書類電子化の手順と効果は？

■申請・承認の電子化もスムーズに

もともとdesknet'sを使っていたので、グループウェアの利用には慣れている。だからPOWER EGG2.0になって、より使い勝手が良くなれば、ユーザーにとってはとくに問題はなかったようである。

電子決裁については、

- ⇒ まず慣れるまで、添付書類などが多い決裁系のはひとまず脇に置き、承認系の案件から手を付ける。
- ⇒ 全員が慣れやすいよう、全員が入力する「勤怠ワークフロー」から始めよう。

という2つの指示が経営陣から出され、従来の「紙+ハンコ」からPC上での申請・承認という「電子化」に慣れやすいよう工夫が施された。その結果、スムーズに行くだろうかというシステム部の心配は杞憂に終わり、普段パソコンを使わない加工現場の人も問題なく入力もでき、皆がさしてトラブルもなく順調に稼働している。申請書式の作成についても、最初の2～3書類を作成する際にシステム部と管理本部「生産性改革室」（売上・生産2倍担当セクション）の間でじっくり話し合って対処した結果、今では「生産性改革室」の女性スタッフがすべての申請書を作成しており、システム部にその負荷がかかることも無い。

「結局 POWER EGG2.0は、全体的に見て社員の皆さんが入りやすい、馴染みやすいシステムだった、ということ。選考時のユーザーの判断が適切だったということになりますね」（入江係長）

「最初は価格稟議に関するものなどかやってみようと思ったんですが、まずは承認系のをさらに絞り込んで、部署ごとに最もよく使われる申請から手がけるようにしました。また全社的にまたがるもの、全社員が使うもの、つまり勤怠申請系とか総務関連申請などを優先して誰もが電子化に慣れることから始めました」（栗田次長）

■24書類の電子化により、年間約1,000万円弱のコスト削減効果が。

では、この電子化による効果をどう見なすか？

「実際のところ、時間・工数・人手などの数値で定量的に効果を割り出すのは困難です。新たな電子化案件が上がるたびに経営トップへも報告していますが、まだまだ高評価をもらえる段階には至っていません。ただ、とくに根拠があるわけではないんですが、私なりには《1申請3万円の効果》で数値化しています。まあ紙代削減・工数カット・省時間などを含めて大雑把に、1帳票の電子化で月に3万円ぐらいはコスト削減できるだろう、と試算しています。そうなるといま24件だから月に72万円、年間で864万円と、約1,000万円弱ぐらいのコスト削減には寄与しているんじゃないかな、と思ってます」（栗田次長）

電子化の推進で仕事のスタイルに変化が。『ホンマに見えるんや〜』

■《見える化》を実感できるしくみに変わった！

申請の電子化が進むことで、一番大きく変わったこと、それは《見える化》が実感できるしくみで処理が進むこと。

「ほら、よくグループウェアの効果を話す時に《見える化》という話をするじゃないですか。申請・承認を電子化することで、その《見える化》を実感できるようになりましたね。例えば総務担当の休暇届ですが、紙伝票の頃は1週間分ほどその伝票を貯めて処理していたようですが、その処理がどこかで止まっても申請者には分からなかったんですよ。実際、止まっているのかどうかすら気が付かなかった。それが電子化になると、総務での承認進行状況が見えるんですね。だから、承認を止めていると、申請者から“こんな簡単な承認、すぐに回してよ”という感じでクレームが入る。他部署の仕事の進み具合が見えるんですね。“ホンマに見えるんや〜”という感じで、最初の頃はみんな結構感激しましたよ」（入江係長）

グループウェアとしての評価は？

“とくに文句が出ないのは、みんな満足している証拠”

それでは次に、グループウェアとしてのPOWER EGG2.0について、その評価を確かめてみよう。

◆ポータル画面は、シンプルで硬派な印象が特徴。

日本電産シンポ様の全社ポータル（ログイン画面）は、硬派な内容がシンプルな構成で訴求されている。画面が立ち上がると、まず日本電産（Nidec）グループのコーポレート・スローガン「All for dreams」に続き、「頂点への道は三大精神にはじまる」として、

1. 情熱・熱意・執念
2. 知的ハードワーキング
3. すぐやる、必ずやる、出来るまでやる

の行動スローガンが表記される。

そして申請・承認の電子化を進める動機の1つとも言える《シンポ一人当たり売上・生産2倍》の目標が掲示されている。



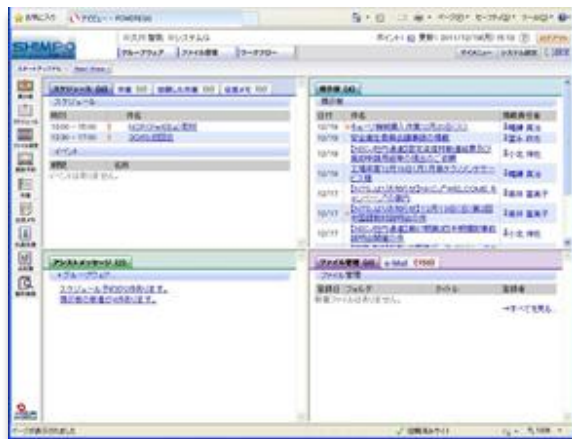
【全社ポータル】

◆ 掲示板については、全社通達の確認スペースとして活用。

掲示板はあまり制限をかけず、総務・経理・システム部門などから流れる全社通達の確認スペースとして活用している。だがそうすると、全社員が見ていることが前提になるので、見ない人への指導は少しくつくなることもある。

導入当初は、掲示板を常に見るようPRしたが、それでもなかなか見ない人もいた。ところがPOWER EGG2.0の場合は、「見ていない人」が分かるから、見ていない社員に対して見るように繰り返し要請し、それでもダメな人には「社長および上司の本部長名」が入った文書を出して「見ない理由」を文書に記して提出するよう求めたりした。またある時は「見ていない社員の上司」宛にメールを送り「あなたの部下が見ていない。

その現状をきちんと把握して、適切に指導してくれ」と直談判したこともある。こうして全員が見るようになるまで、繰り返し指導を徹底した結果、今では全社通達確認の場として掲示板は日常的に不可欠のものとなっている。



【個人ポータル】

◆ 社長自身が、スケジュール登録を率先垂範。

スケジュールについては、社長自ら「きちんと入れなさい」という指示が出ている。社長の場合、マイメンバー登録をして、主立った役員・社員の出先簿を閲覧できるようにしているそうだ。また社長のスケジュールについては、基本的に全社公開している。

「他の人のスケジュールが把握できるのは助かりますね。例えば私の場合ですと、合併に伴うシステム統合・調整作業などを協力して進めている日本電産キョーリのプロジェクト担当者のスケジュールが把握でき、いま何をどう進めているのかが掴めます。そんな感じで、皆きちっとスケジュールを埋めている。何も入っていない、空いていると、仕事をしていないように思われますからね（笑）」（栗田次長）

◆ グループウェアとしての使い勝手が良い。入れ替えて、あっという間にみんな慣れた！

「グループウェアとしての使い勝手は、私は良いと思っています。4分割がきちっとし過ぎていてちょっとお役所っぽいや、遊び心がもっとあっても、とか個人的には思いますが、現場からシステム部に文句が上がって来ないということは、みんな満足している証拠ですよ。この手のものは、何か不満があると必ず文句言って来ますが、満足していると別に何も言うては来ない、とそういうもんです。みんなあっという間に慣れたようです」（入江係長）

私がとくに気に入っているのは、アシストメッセージ。これが便利ですね。人それぞれの性格にもよるでしょうが、私の場合はアシストメッセージが出たらすぐ処理してカラにする。そうしないと気分的に落ち着かない。こういう人が増えれば、思うツボなんですよ（笑）」（栗田次長）

「いまはもう掲示板見たり、スケジュール確認があるから、皆朝来ると4分割画面を開く。やはり使い勝手が良いから、違和感なくスッと入って行ける感じかな……。確かに電子承認などでもっとすごいことができるものもあるのかもしれないが、それを全員が使えなければ意味がない。だから、皆が使えるという点を考慮すると、POWER EGG2.0に満足している。上出来だと思ってますよ」（栗田次長）

お誉めの言葉をいただいた。

とはいえ、いまはまだ「ひと通り電子化しやすいものを手がけて一段落」した状態であり、課題はまだ山積している。

まずは同じ場所で働くことになる日本電産キョーリの人々に、新しいグループウェアであるPOWER EGG2.0と電子申請・電子承認に慣れてもらうことが当面の課題である。

そして同じシステムを動かすことが可能になれば、これまでの「1次開発＝汎用申請の電子化」に引き続き、合併調整によって遅れていた「2次開発＝基幹システム連携（基幹の情報を各ユーザーポータルに連携）」および「3次開発＝電子承認済データを基幹システムへ取り込む連携」なども進めて行きたい意向である。

こうした基幹連携への取り組みは、統合作業完了後の2012年5月以降、いっそう拍車がかかることになりそうである。



ディサークル株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-36-1

住友不動産千代田ファーストウイング

TEL:03-3514-6060 FAX:03-3514-6069

<http://www.d-circle.com/>

取り扱いパートナー

※POWER EGGはディサークル株式会社の登録商標です。

※その他記載されている会社名、製品名およびサービス名等は各社の登録商標または商標です。

※本事例に記載された情報は初掲載時のものであり、閲覧される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。